

むつ総合病院 精神神経科 後期研修プログラム

はじめに

現在、精神医療が関与する問題は大きく広がっています。社会の変化やライフサイクルと密接に関係して増加している疾患や問題、たとえば不登校、接触障害、人格障害、成人や老年期のうつ病と自殺の増加、痴呆などですが、このような多くの問題に対して専門的な対応がますます求められている時代です。

さらに今後は、緩和ケア・告知の問題・慢性疾患患者への対応など、身体的側面に加えて心理的。社会的側面も含めて総合的に診療していく能力が求められるでしょう。

当科は、下北地方唯一の精神科であり、病棟（閉鎖病棟）も併設されています。そのため外来診療研修に加えて、入院患者の診療研修（作業療法も含む）も可能です。総合病院の中でのコンサルテーション精神医学の症例も豊富であり、精神科救急にも対応しています。さらに、保健所・児童相談所・社会福祉施設・老人施設・地域での講習会など、行政も含めた精神保健分野・地域保健分野の研修も行うことができます。児童思春期、てんかん、リエゾンなどの専門分野については、連携協力している弘前大学医学部附属病院・精神神経科や県立精神保健福祉センターでの研修によって、さらに広い経験を積むことができます。

（概要）

病床：106床（作業療法室併設）

外来：一日90～100名（新患は一日約3名）

医師：常勤3名（初期研修医ローテーション毎月1～2名）

看護師：27名

作業療法士：1名 助手：1名

精神保健福祉士：1名

1)【対象】

初期研修修了あるいは修了予定者。または2年以上医師としての経験があり、一般的な精神医学の知識を備えた方。

2)【研修内容】

研修期間は原則3年間とし、うち1年間は弘前大学医学部附属病院などで研修する。病棟では主治医となり、指導医の指導を受けつつ診断・治療にあたる。外来では当初は主として新患の予診をより指導を受け、ケースによっては外来主治医として継続して治療を行っていく。同時に、可能な範囲で初期研修医に対する指導・助言も行う。

病院全体の当直の他、休日・夜間の待機業務も分担する。

3)【研修スケジュール】

1. 午 前

病棟カンファレンス参加

外来新患の予診と陪診

- ・可能な症例では、再診時の診察を継続する。
- ・研修期間内に入院になれば、担当医になる。

2. 午 後

入院患者の診察

- ・指導医のもとで、担当医として診察・検査・治療にあたる。
- ・できるだけ入院から退院までを受け持つ。

他科病棟への往診（コンサルテーション）

- ・指導医のもとで、他科入院中の新患、再来患者の診察、治療にあたる。

社会復帰活動への参加

- ・作業療法（デイケア）等のプログラムに参加する。
- ・保健所、児童相談所、市町村の相談事業等に同行する。
- ・可能なら小規模作業所等での見学研修を行う。

介護老人福祉施設、知的障害者施設等への往診に同行する。

看護・カンファレンス（新患、生活療法など）への参加

3. 夜間・休日

精神科救急患者に対応するため、指導医のもと待機・当直を行う。

緊急の病棟診療にも参加する。

4)【指導体制】

精神保健指定医 2～3名が指導にあたる。

5)【研究・大学院など】

弘前大学医学部神経精神科講座と協力連携して相談に応じる。

6)【資格取得】

精神保健指定医、日本精神神経学会専門医など

7)【指導体制】

1. 指導医数 2名

2. 指導医の氏名および資格

(1) 庭山英俊：厚生労働省精神保健指定医

(2) 河田祐子：厚生労働省精神保健指定医